

## 新指定文化財

東久留米市では、無形民俗文化財、有形民俗文化財、史跡、旧跡など51件が文化財として指定されていますが、今回、新たに3件の文化財が指定されました。

新指定文化財をご紹介します。

### 米津寺開山大愚和尚肖像画(有形文化財)

幸町四丁目<sup>べいしんじ</sup>米津寺(臨済宗妙心寺派)

絹本彩色

縦100センチ、横49センチ

開山<sup>たいぐ</sup>大愚和尚の肖像画で、頂相\*(ちんぞう)の伝統的な形式を受けつぎ、面貌の描出も像主の個性を巧みにあらわしています。画像の上に大愚和尚自筆の讚があり、

東漂西泊 三世諸仏

一身光影 為主為伴

歸家穩坐 寒垣草木

八萬大衆 歳空松柏

七百高僧 応

とあって、承応二年(1653)の年記が墨書されています。画像の作者は不明ですが、頂相画として美術的にも優れた遺品であり、保存状態の極めて良好な歴史資料です。

なお、文化財保護のため、普段は一般公開していません。

(参考文献:文化財資料集6「寺社建築・美術編」)



▲開山大愚和尚肖像画

#### \*頂相

禅僧の肖像を頂相といいます。元来は俗人にみられない仏陀の頭頂部の様相という意味で、禅僧はこれを師からさずかって尊信しました。

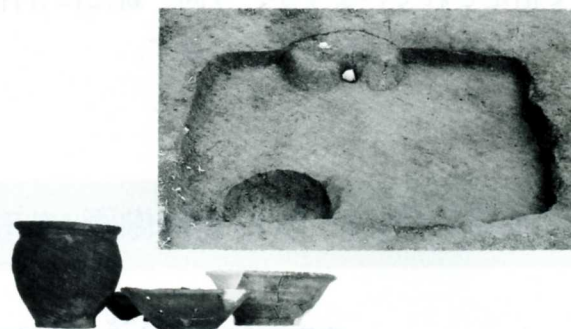
— 山川出版社『図説 歴史散歩事典』より

## 向山遺跡出土品一括（有形文化財）

幸町三丁目11番10号  
縄文時代、平安時代  
一括資料

むこうやま  
向山遺跡は、昭和59年に宅地開発に伴う発掘調査が行われ、縄文時代早期と平安時代の集落跡が確認されました。なかでも早期末葉の定型的な集落跡は全国で初めての発見として注目されました。出土遺物は早期末葉の土器及び石器、平安時代の土器などです。早期末葉の条痕文系土器に東海地方の石山式や関東地方の打越式おっこしを伴う土器群が出土しており、在地の土器と持ち込まれた他地域の土器がどのように受容され、変化していったかを知るうえで貴重なものです。また、平安時代の住居跡から出土した当時のセットの土器は類例の少ない資料となっています。

出土品の一部は市の郷土資料室でご覧いただけます。



▲住居跡と平安時代の土器

（参考文献：東久留米市埋蔵文化財調査報告書第12集「向山遺跡」）

## 小山台遺跡（史跡）

小山一丁目10番  
旧石器時代、縄文時代  
4,399平方メートル



▲小山台遺跡公園

こやまだい  
小山台遺跡は、昭和26年に遺跡の所在が確認され、45年には久留米中学校による学術発掘調査が行われました。この調査は生徒、教員、父母、行政機関、研究者の協力で行われた市民参加の発掘で、多摩地域でも先駆的な業績として評価されています。調査の結果、縄文時代の住居跡4棟が確認され、縄文時代中期の集落跡であることが判明しました。調査後、保存の要望が高まり、昭和57年に遺跡公園として整備されると共に、公有地化が進められ、平成10年度で完了しました。市内の縄文時代遺跡としては最大規模の一つであり、その中心部分が遺跡公園として保存整備された貴重な遺跡です。

（参考文献：「小山台遺跡」）

